

	① 地域・避難所で流行 する可能性 1. 低、2. 中、3. 高	② 公衆衛生上の重要性 (罹患率・致命率・社会的) 1. 低、2. 中、3. 高	③ リスク評価 1. 低、2. 中、3. 高	コメント
避難所の過密状態に伴う感染症				
急性呼吸器感染症	2	2	2	避難所での過密状態が継続すれば発生リスクが高まる。避難所においては、手指衛生、咳エチケットを徹底する。肺炎球菌ワクチンの定期接種対象者で未接種者は、避難生活が長期にわたる場合は接種を検討する。
インフルエンザ/インフルエンザ様疾患	1	2	1	現在、国内ではインフルエンザの活動性は低い。
結核*	2	2	2	咳が2週間以上続く場合には鑑別が必要である。治療中の避難者の場合は、確実な服薬継続が重要である。
水系/食品媒介性感染症				
感染性胃腸炎/急性下痢症(黄色ブドウ球菌・サルモネラ・カンピロバクター・病原性大腸菌・ノロウイルス・ロタウイルスなど)	3	3	3	過去には、災害時に避難所で胃腸炎の散発的な発生や食中毒事例が報告されている。避難所において嘔吐・下痢の症状が出現した際は、速やかに申告するよう避難者、支援者含めすべての避難所関係者に周知する。避難所での手指衛生対策強化に加えて、食品衛生管理の強化、トイレの衛生状態の保持が重要である。
野外活動等で注意する感染症				
創傷関連皮膚・軟部組織感染症	2	1	1	野外作業の際には、肌を露出しない服装で作業を行う必要がある。破傷風のコメントも参照。
節足動物等の媒介による感染症	2	2	2	肌の露出を避け、虫よけスプレーの使用など蚊に刺されない対策をするとともに、蚊の発生を避けるため屋外の容器や廃棄物を水がたまらないように適切に処理する。また、日本脳炎の定期接種対象者で必要回数受けていない場合は、早めに接種を受ける。
レジオネラ症	2	2	2	エアロゾルや粉塵の曝露に注意。がれき撤去等の作業に伴い発生するリスクがあることから、適宜マスクを着用する。
レプトスピラ	1	2	1	汚染された水や土壌との直接的な接触を最小限にする。
ワクチンで防ぐことのできる感染症				
破傷風	2	3	3	外傷後、泥流や土壌曝露後に感染しうる。がれきや泥の撤去作業時にもリスクがある。適宜医療機関に相談する。定期接種対象者で必要回数受けていない場合は、早めに接種を受ける。
麻疹(はしか)	2	2	2	輸入例により持ち込まれ、また避難所に感受性者(乳幼児等やワクチン未接種者等)が居住する場合、重症かつ空気感染により伝播する麻疹は常に最大級の警戒をする必要がある。急な経過で発熱と皮疹を呈する者が認められた場合には速やかに報告の上隔離を検討する。定期接種対象者で必要回数受けていない場合は、早めに接種を受ける。
風疹	2	2	2	妊娠初期の感染は先天性風しん症候群のリスクがある。(妊娠中の風しんワクチン接種は禁忌) 定期接種対象者で必要回数受けていない場合は、早めに接種を受ける。
ムンプス(おたふくかぜ)	1	1	1	過去に避難所での報告もあったことから、注意を要する。任意接種ではあるが、予防のためにワクチンが用いられる。
水痘(みずぼうそう)	2	1	1	空気感染により伝播することから避難所で流行の可能性があり、症例が探知された場合には速やかに適切な対応をとる。带状疱疹が水痘の感染源となる場合があり注意を要する。定期接種対象者で必要回数受けていない場合は、早めに接種を受ける。
百日咳	2	2	2	長期に咳症状が持続する場合には乳幼児への接触を控え、咳エチケットを遵守する。定期接種対象者で必要回数受けていない場合は、早めに接種を受ける。
その他				
体液を介して感染する疾患(B型肝炎/C型肝炎/HIV)	1	2	1	
細菌性髄膜炎、ウイルス性髄膜炎	1	2	1	原因病原体によっては重症度が高いため、避難所において発生が確認された場合には注意が必要となる。
結膜炎	1	1	1	粉塵によるとみられる結膜炎の発生が懸念される。また、流行性角結膜炎の発生に注意する。

*被災直後よりも避難所での滞在が長期になった場合に問題となる